

概要版 令和3年度 コミュニティリーダー研修会

【開催の趣旨】

町内会・自治会をはじめとするコミュニティ団体では、役員の担い手不足、活動のマンネリ化、地域交流の希薄化など様々な課題を抱えており、将来的にコミュニティの活力の低下が懸念されています。本研修会は、地域課題の解決へ向けた知識や技術を普及するとともに、地域の特性を活かした活動事例の紹介等を行うことにより、コミュニティ団体を牽引する実践的なリーダーの養成を目的として開催するものです。

【主催】

盛岡市、盛岡市町内会連合会、玉山地域自治会連絡協議会、「世界につながるまち盛岡」市民会議

【プログラム】

事例発表	発表団体①	城南地区地域づくり委員会
	発表団体②	盛岡市 男女共同参画推進室
講演	講師	(特非) いわて地域づくり支援センター 代表理事 広田 純一 氏
	演題	「地域の課題解決力を上げる」

【事例発表①】 城南地区地域づくり委員会

【地区の概要】

城南地区は22の町内会・自治会により構成される地区で、主に住宅地が中心です。北側に文教地区、東側に神社群、南側に商業地区、西側に歴史的景観地区が位置しています。

【「地域づくり計画」策定の目的】

城南地区地域づくり委員会では、委員（町内会・自治会・各団体等）の相互理解を土台とし、城南地区における古都の風情文化を生かすこと、そして安全安心なまちづくりを進めることを目的に、平成25年3月に「地域づくり計画」を策定しました。

【地域づくり事業の歩み】

「地域づくり計画」の策定に向け、平成23年度から本格的に事業を開始。今年度（令和3年度）で11年目になります。

なお、これまでの事業期間は、大きく3つの段階に整理しています。（右表参照。）

段階	事業内容	期間
第1段階	事業計画立案期	平成23年度～平成24年度
第2段階	事業内容確立期	平成25年度～平成29年度
第3段階	事業内容発展期	平成30年度～



2. 地域コミュニティの活性化

「地域コミュニティの活性化」とは何か？

「本来の地域コミュニティ」（次の3つの機能を備えたコミュニティ）を取り戻すこと。

- いざという時に助け合うことができる
- 普段から心地良い暮らしができる
- 地域の課題解決に取り組むことができる

コミュニティ活性化のための実践的な手順

①志（問題意識）のある人たちが集まる

地域の現状や課題を本音で共有したり、先進事例を勉強することが第一歩。

②活性化に向けた作戦を立てる

形式的なことはこだわらずに、本当に必要なことに絞ることがコツ。

③とりあえず、始めてみる

できることから、できる人が、できるやり方でやってみることが大事。

④1年後（事業によっては半年後）に振り返る

⑤再度、作戦を立て直す

活性化のコツ

「小さく始めて、少しずつ広げていく」こと。

3. 自治会・町内会をどうするか？

町内会・自治会の悩み事は？

「担い手不足」が断トツで1位。次いで、「参加者の減少」や「役員・住民の高齢化」。

解決の方向性は？

■「担い手不足」について

- ①輪番制の導入
- ②時期会長（役員）のポスト創出
- ③役員負担の軽減
 - ・役員数を増やし、負担を分散させる。
 - ・仕事自体を見直し、削減する。
 - ・必要性が薄くなった事業はやめる決断を。

■「地域活動への参加促進」について

- ①活動内容の見直し、活動の縮小
- ②情報発信（これが意外と大事!）
- ③運営する側（役員）の負担軽減

4. 広域の地域コミュニティ組織について

「地域運営組織」とは？

従来の自治、相互扶助から一歩踏み込んだ活動を行っており、地域の課題解決に持続的に取り組める組織のこと。多くは、町内会・自治会の連合組織的な構成を取っています。

従来の活動と組織を人口減少時代に合わせた形に見直す必要がありますが、単一の町内会・自治会では対応が難しいことから、地域運営組織を作り、広い範囲で取り組もうとするのが、現在の地域づくりの潮流になりつつあります。

「地域運営組織」であるための要件

「協議」と「実践」。これが無いと、地域運営組織とは言えません。

構成メンバーで地域の課題が共有され、解決策の検討が行われているか？また、課題解決のための実践を、組織自ら、あるいは他の組織・団体と連携して行われているか？ということが地域運営組織の判断基準になります。

町内会・自治会との関係

■「補完・連携」の関係

人口減少時代において弱体化しつつある町内会・自治会では扱いきれない地域課題に取り組む（補完）、あるいは、一緒になって取り組む（連携）という関係性を持ちます。

— 終わりに —

「良い地域」とは？

一言で表すと、「腹がくくれている地域」。ないものねだりをせず、今あるものを生かすのが肝要です。

人間、いつも嘆いている人とは長く付き合いたくないと思わないはず。地域も同じで、どんなに厳しい条件におかれても、前向きに「できることからやろう」という姿勢を持っている地域は良い地域であると言えます。

縁を大切に。

いま住んでいる地域は、何かの縁があって暮らすことになった地域。ぜひ、地域を大切にすゝめ、気持ちを忘れずに、地域づくりに励んでいただきたいと思います。

【担当】

〒020-8530 盛岡市内丸12-2 盛岡市役所 市民協働推進課 協働推進係

TEL：019-626-7535（直通）

FAX：019-622-6211（代表）

電子メール：kyodo@city.morioka.iwate.jp

（発行日）

令和4年2月15日

【事例発表②】 盛岡市 男女共同参画推進室

なかがわしおつかだい

【男女共同参画とは？】

「男女共同参画」は、平成11年に制定された男女共同参画社会基本法により定義されている言葉で、市では「盛岡市男女共同参画推進条例」において改めて市版の定義を定めています。

盛岡市における「男女共同参画社会」の定義を要約すると、「性別等に関わらず、誰もがお互いの人権を尊重し、ひとりひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会」となります。

【多様な視点の重要性】

多様な人が能力を発揮することで組織に変革が起き、新しい価値やアイデアがもたらされたり、今までにない発想・工夫が生まれるといった多くのメリットが考えられます。

変化が激しい時代に組織が持続可能な運営を進めていくためには、多様な人の活躍が必要不可欠であると言えます。

【盛岡市の現状】

市では、令和2年度時点で町内会・自治会長に占める女性の割合が7.1%と、県内の自治体の中では一番高くなっていますが、これをどう捉えるかが重要です。人口全体における男女比はほとんど違いがないにも関わらず、7.1%しかいないと見ることもできます。このことから、市としてはこれまで以上に女性の方にもリーダーや役員という立場から地域活動を盛り上げていただければと考えています。

【事例紹介】 福岡県那珂川市王塚台自治会

■女性の自治会長によると…

段階	内容
起	長年子ども会の活動を担っていた女性が自治会長に就任した。
承	子ども会のお母さんにアンケートを行ったところ、「子育てに関して意見交換ができる場所が欲しい」という意見が多数寄せられた。
転	意見を踏まえ「子育て世代の居場所づくり」と「子どもの見守り活動」を開始。
結	親子連れでの地域行事への参加が増えたほか、子どもが大きくなった後も地域に貢献してくれるようになった。 → <u>地域の活性化につながっている。</u>

上記の事例は、女性が自治会長に就任されたことが起点となり、女性ならではの視点で活動の見直しを進めた点が功を奏した事例と言えます。

少子高齢化や担い手不足が進む中で、活動の大きなヒントになるのではないのでしょうか。

【終わりに】

今回は「地域活動」にフォーカスした内容で事例紹介を行いました。市男女共同参画推進室やもりおか女性センターでは多様なテーマの講座を実施しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。誰もが活躍できる社会の実現に向け、皆様の御協力をお願いします。

【講演】 「地域の課題解決力を上げる」

— 1. 地域コミュニティとは何か? —

「地域コミュニティ」の定義

「居住地域を同じくし、利害を共にする共同社会」

なぜコミュニティが必要か？

①いざという時のため

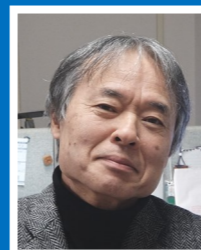
災害時、一番に助け合えるのは、物理的に近くにいる人同士。有事の時のためにも、近所の方とは顔見知りになっておくべきです。

②普段の心地良い暮らしのため

人間というのは、知っている人には協調的ですが、知らない人には警戒しがち。顔見知りにならなければ、自然と支え合い、助け合える「心地良い関係性」を築くことができます。

③地域の課題解決のため

最低限の共同作業のほか、お祭りや防災活動といった、より積極的な地域づくり活動を進める必要があります。



【講師】

ひろた じゅんいち
広田 純一 氏

【講師プロフィール】

岩手大学名誉教授。専門は地域計画。住民参加型地域づくり、住民と行政による協働のまちづくり、課題解決型の地域住民組織（地域運営組織）の形成などに実践的に取り組んできました。

【第1段階：事業計画立案期】（平成23年度～平成24年度）

「地域づくり計画」の策定に向けた取組を進めた期間。地域の実態に即した計画を策定するため、計画策定委員会、役員会、部会といった会議を繰り返し（2年間で20回程度）開催し、地域内の意見集約を丁寧に行いました。策定までは、大まかに次の手順で進めました。

- （手順①）部会単位でのワークショップ開催・計画の素案作成
- （手順②）役員会での協議
- （手順③）地域住民への回覧と意見聴取
- （手順④）計画の成案化

【第2段階：事業内容確立期】（平成25年度～平成29年度）

策定した「地域づくり計画」に基づいて事業を実施した期間。

「住みよいまち古都『城南』」を計画のスローガンとして掲げ、次の4つのテーマに沿って地域づくり事業を展開しました。

- （テーマ1）「古都の風情が似合う安全なまちづくり」
- （テーマ2）「古都の商い賑わうまちづくり」
- （テーマ3）「古都の文化のいきづくまちづくり」
- （テーマ4）「古都の心がかよふまちづくり」



【第3段階：事業内容発展期】（平成30年度～）

事業を発展的に実施した期間。第2段階（事業内容確立期）で掲げた4つのテーマをそのままに、内容のブラッシュアップを行いながら事業を進めています。現在（令和3年度）もこの時期に該当します。

【これまでの取組内容】（主なものを抜粋）

■城東中学校へ地域活動用ジャンパーを貸与（210着）

地域活動（清掃活動や除雪活動等）時に着用し、更なる活動の推進を図る目的で実施。

■由緒板（いわればん）・案内板の設置

地域住民はもちろん、通りすがりの人や観光客に対しても地域の歴史・文化を発信する目的で実施。

■「盛岡『城南地区』マップ」及び「絵本・冊子」の作成

地域内外への情報発信のほか、地域資源を活用した散策会の開催や地域資料の集約・保存等を行う目的で実施。

■三大行事（リサイクルバザー・世代間交流活動・新春餅つき大会）

の継承と充実

40年来の歴史を持つ代表的な地域活動を、後の世代へ継承・充実させていく目的で実施。

【今後の展望】

城南地区内には近々、新バスセンターや新たな商業施設がオープンする予定です。これによって地域内に人流が生まれ、交流が増え、更なる賑わいが創出できるものと思っています。このように、数年後には地域の中心部が一新されます。現在は、それまでの「過渡期」であるからこそ、活動の可能性が大きいと捉え、確かな前進が大事と考えています。

今後は、城南地区の情報発信に更なる力を入れていくため、当委員会のHPを立ち上げたいと考えています。新たな取組は新たな創造を生み、将来的に城南地区に興味関心を持つ人が地区内外から増えてくれるものと期待しています。その結果として、まちづくりに主体的に関わろうとする人が、内部からも外部からも集結し、城南地区の活性化につながっていくことになれば、この上ありません。

